



十二社神社の鑄鉄の鳥居と拝殿―香芝市で



十二社神社 (香芝市)



二上山を臨む近鉄五位堂駅南約600mに十二

社神社があります。

目を引くのは鑄鉄の鳥居。柱には1839(天保10)年と「藤原美信」の銘があり、一部は昭和に補修されました。拝殿横の建物には鑄鉄燈籠4基が奉納され、19(文政2)年と天保10年の銘、

(住所) 香芝市五位堂4の284
(祭神) 天神7代 地神5代
(文化財) 鑄鉄鳥居1基
鑄鉄燈籠4基

―いずれも市指定文化財
(交通) 近鉄五位堂駅徒歩約10分
(拝観) 境内自由
(駐車場、電話) なし

鑄物師の名があります。いずれもこの地で活躍した五位堂鑄物師の作品です。戦時中の金属供出から残った貴重な品です。1996年、香芝市の指定文化財になりました。

原、小原の3家が活躍、津田家は今も操業していたます。祭神は天神7代、地神5代。香芝町史には「十二社権現」とありますが今は「十二社神社」といわれます。宮司は二上山穀豊穰を願うおんだ祭が行われ、更に毎週住民らが境内を掃除するなど、大事に祭られています。

江戸時代、五位堂は鑄物産業が栄え、県各地の寺社に梵鐘などを納められていました。本殿は二間社春日造

(正面の柱間が一つで屋根の正面にひさしが付いた建築様式)で、両側に摂社の春日神社と皇大神社が祭られています。拝殿には氏子らの絵馬がたくさん奉納され、毎年4月の第1日曜日に五穀豊穰を願うおんだ祭が行われ、更に毎週住民らが境内を掃除するなど、大事に祭られています。

江戸期から残る鑄鉄鳥居

(奈良まほろばソムリエの会会員 平越真澄)